

令和5年度 全国学力・学習状況調査 本校の結果について

4月18日に6学年児童を対象に実施しました「令和5年度 全国学力・学習状況調査」について、文部科学省及び北海道教育委員会、旭川市教育委員会の報告書が公表されました。これらの報告書をもとに本校の結果を検証し、その概要と指導の改善策をまとめましたのでご報告いたします。

今回の結果分析で、本校では国語、算数ともに全国平均を上回る十分な学力の定着が認められました。以下、各教科の特に正答率が高かったところを「成果」、他の領域や分野に比べて正答率が低かったところを「課題」としています。

今後は、この調査の結果分析をもとに、家庭・地域の連携をいただきながら、学力向上に向けた指導改善を一層推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

1 国語科に関する結果分析及び指導の改善策

成果	○国語の全体の平均正答率(本校81%)は、全道(66%)・全国(67.2%)を大きく上回っていました ○話すこと・聞くことにおいて、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることがよくできています。 ○言葉の特徴や使い方に関する事項において、送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことがよくできています。
課題	▲情報の扱い方に関する事項において、図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解することに課題が見られました。 ▲書くことにおいて、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課題が見られました。 ▲読むことにおいて、「要約すること」に関して目的を意識して、内容の中心となる語や文を選ぶことに課題が見られました。 ▲知識及び技能の言葉の使い方に関する事項において、日常よく使われる敬語の謙譲語の理解に課題が見られました。
指導・改善	【情報の扱い方に関する事項】 ・情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導していきます。 【書くこと】 ・必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように指導していきます。 【読むこと】 ・〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導を工夫していきます。

2 算数科に関する結果分析及び指導の改善策

成果	○全ての平均正答率で、全道・全国を大きく上回る。全体(本校78%、全道61%、全国62.5%) ○変化と関係の領域において、伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、規則性を見付け、表の中の知りたい数を求めることがよくできています。 ○変化と関係の領域において、伴って変わる二つの数量の関係が、比例関係にあるかどうかを、表から適切な値を用いて説明することがよくできています。 ○図形の領域において、正方形の意味や性質について、四つの辺の長さが全て等しく、四つの角が全て直角であることをよく理解しています。
課題	▲「図形の意味や性質」「割合」の知識が未定着な子が多くいました。 ▲数と計算の領域において、除法の筆算について、他の学習内容と関連付けて、計算の仕方について捉え直すことに課題が見られました。 ▲図形の領域において、正三角形の一つの角の大きさが 60° になることは理解しているが、テープを切って開くという、示された操作と関係づけて考えることに課題が見られました。 ▲変化と関係領域において、百分率で表された割合について示された割合から、基準量を具体的に決めて、それに対する比較量を捉えることに課題が見られました。 ▲データの活用の領域において、示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いについて、例示を基にして言葉と数を用いて記述することに課題が見られました。

指導・改善	【数と計算】 - 日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明できるように指導する。 【図形】 - 具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導する。 【変化と関係】 - 伴って変わる二つの数量が、比例の関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさの求め方を説明できるように指導する。 【データの活用】 - 複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導する。
-------	---

3 児童質問に関する結果分析及び指導の改善策

傾向（○）と課題（▲）・改善策（→）	【傾向】全体として多くの項目で全国平均を上回っていました。 ○教科の学習の有用感に関わる項目について高評価でした。 「国語の学習は大切だと思う」 97. 7% 「算数の学習は大切だと思う」 97. 8% 「国語の勉強は将来役に立つと思う」 97. 7% 「算数の勉強は将来役に立つと思う」 100 % 「授業で学んだことを他の教科で生かしている」 90. 9% ○主体的・対話的で深い学びにの「対話」に関する項目は高評価でした。 「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」 88. 6%（全国81. 8%） 「学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」 95. 4%（全国77. 2%） 【今年度の顕著であった課題】 ▲規範意識に関わる項目 「人が困っているときは進んで助けている」、「人の役に立つ人間になりたいと思っている」の設問について「どちらかといえば当てはまらない」の割合が全国より多く、過年度より低くなってきている。 →日常の学習においても他者評価を取り入れるなど、他のよさに目を向け互いに認め合う場を多くする等し、振り返りの中で、自己の関わり方を考える等を通して高めていくようにします。 ▲「先生はわかるまで教えてくれている」「困りごとや不安をいつでも相談できる」の設問について「どちらかといえば当てはまらない」の割合が全国の割合より多く、過年度より増えました。 →学級風土をさらに醸成したり、他にも相談できる場があることを伝えたりする等して、心理的な「安心・安全」を確保しつつ、児童が「わかる授業」「できる授業」を目指して、日々の授業改善に継続して取り組んでいきます。 【昨年度からの継続した課題】 ▲「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」という2つの設問について、過年度と比べると「あまりしていない」「全くしていない」という回答の割合が多くなりました。 →「早寝・早起き・朝ごはん」等の規則正しい生活は学習の基盤ともなることの児童への啓蒙に加えて、生活リズムチェックシートの取り組みも合わせ、ご家庭と協力しながら推進し、子どもたちの健全育成に努めていきます。 ▲読書に関わる項目 全体的には高評価ではありましたが、各項目の評価が過年度から低下している傾向にあります。 「休み時間や放課後等図書館の利用について全く利用しない」 31. 8%（全国40. 9%） 「家庭での蔵書500冊以上ある」 13. 6%（全国5. 3%） 「読書が好き」 80. 5%（全国71. 8%） →回答の結果から、読書が好きな児童が多く、学校・家庭における読書環境も整っているということが伺えました。今後はその環境を生かしてよりよい読書活動となるよう児童に啓蒙し、さらなる活動の充実を進めていきます。
--------------------	---

【全国の結果】 国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

または、検索サイトで **国研 全国学力** と検索

【北海道の結果】 北海道教育委員会 <https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/168876.html>

または、検索サイトで **道教委** と検索、サイト内検索で **令和5年 全国学力** と検索

【旭川市の結果】 旭川市のHP <https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/218/251/257/d056900.html>

または、検索サイトで **旭川市 全国学力** と検索